

## 調査の概要

人口動態統計は、出生・死亡・婚姻・離婚及び死産の「人口動態事象」について、その実態を明らかにするために、これらの各届書等から作成された人口動態調査票をとりまとめたものです。本概況では、令和元年に日本で発生した日本人の事象を客体としています。

### ・ 用語の解説

自然増減：出生数から死亡数を減じたもの

乳児死亡：生後1年未満の死亡

新生児死亡：生後4週未満の死亡

早期新生児死亡：生後1週未満の死亡

死産：妊娠満12週以後の死児の出産

周産期死亡：妊娠満22週以後の死産と早期新生児死亡を合わせたもの

合計特殊出生率：その年次の15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当します。

### ・ 比率の解説

$$\text{出生率・死亡率・自然増減率} = \frac{\text{出生数・死亡数・自然増減数}}{\text{人口※}} \times 1,000$$

$$\text{婚姻率・離婚率} = \frac{\text{婚姻・離婚届出件数}}{\text{人口※}} \times 1,000$$

$$\text{死産率・自然死産率・人工死産率} = \frac{\text{死産数・自然死産数・人工死産数}}{\text{出産数（出生数＋死産数）}} \times 1,000$$

$$\text{乳児死亡率・新生児死亡率} = \frac{\text{乳児死亡数・新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 1,000$$

$$\text{周産期死亡率} = \frac{\text{妊娠満22週以後の死産数＋早期新生児死亡数}}{\text{出産数(出生数＋妊娠満22週以後の死産数)}} \times 1,000$$

$$\text{死因別死亡率} = \frac{\text{死因別死亡数}}{\text{人口※}} \times 100,000$$

$$\text{合計特殊出生率} = \left( \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女性人口}} \right)_{15\text{歳から}49\text{歳までの合計}} \\ \text{(5歳階級で算出し、5倍したものを合計している)}$$

※ 令和元年10月1日現在の外国人を含めた総人口を用いた。

なお、厚生労働省算出の全国の率は、千未満を四捨五入した日本人人口数を用いている。(21大都市のみ)